

令和6年度 病害虫発生予察情報 第4号 (7月予報)

群馬県農業技術センター 環境部 発生予察係
(病害虫防除所)

TEL : 0270-62-1059 FAX : 0270-62-1021

【予報の概要】

作物名	病害虫名	対象地域名	発生時期	発生量
イネ	葉いもち	早期栽培地域	—	並
		早植栽培地域	並	並
		普通期栽培地域	並	並
	紋枯病	早期・早植栽培地域	並	やや多い
	縞葉枯病	感受性品種栽培地域	—	並
	イチモンジセセリ 第2世代幼虫 (イネツトムシ)	栽培地帯全域	—	並
	ツマグロヨコバイ	栽培地帯全域	—	並
	フタオビコヤガ (イネアオムシ)	栽培地帯全域	—	並
	ごま葉枯病	栽培地帯全域	—	並
白葉枯病	栽培地帯全域	—	並	
果樹全般	カメムシ類 (チャバネアオカメムシ)	栽培地域全域	—	多い
	ハダニ類	栽培地域全域	—	並
リンゴ	斑点落葉病	栽培地帯全域	—	並
	炭疽病	栽培地帯全域	並	並
	スモモヒメシンクイ	栽培地帯全域	—	並
	キンモンホソガ	栽培地帯全域	—	並
ナシ	黒斑病	栽培地帯全域	—	並
	黒星病	栽培地帯全域	—	並
	ナシヒメシンクイ	栽培地帯全域	—	並
	ハマキムシ類	栽培地帯全域	—	並
ダイズ 野菜類 花き類	ハスモンヨトウ	平坦地域	—	並
野菜類 花き類	オオタバコガ	栽培地帯全域	—	多い
野菜類	軟腐病	栽培地帯全域	—	並
キャベツ	コナガ	高冷地栽培地帯	—	並
	タマナギンウワバ	高冷地栽培地帯	—	並

作物名	病虫害名	対象地域名	発生時期	発生量
夏秋ナス	ハダニ類	栽培地帯全域	—	並
	アザミウマ類	栽培地帯全域	—	並
ネギ	ネギアザミウマ	栽培地帯全域	—	並
	シロイチモジヨトウ	栽培地帯全域	—	並

(発生時期の—は連続発生)

【主な病虫害の発生予報】

I) イネ

葉いもち	発生地域	発生時期	発生量
	早期栽培地域	—	並
	早植栽培地域	並	並
	普通期栽培地域	並	並

1 予報の根拠

- (1) 現在までの発生量は平年並である。
- (2) BLASTAM (ブラスタム p. 3コラム参照) の結果、6月1日～7月2日までの感染好適日の出現日数の合計は平年並である(表1)。
- (3) 向こう1か月の気象予報(7月4日発表)によると、平均気温は高い確率80%、降水量は平年並または多い確率40%、日照時間は少ないまたは平年並の確率40%である。

《発生しやすい条件：平均気温19～25℃で、降雨頻度が高く、多湿である場合。夜間の風が弱く、朝露の乾きが遅い場合。イネが軟弱徒長気味で葉色が濃い場合。》

2 防除上注意すべき事項

- (1) BLASTAMの感染好適日の約1週間後が、葉いもちが発生する危険性が高まるので、その時期を中心にほ場を観察する。
※「BLASTAM」の結果は、農業技術センターホームページにて更新しています。
- (2) 前年多発したほ場やイネの葉色の濃い場所、水口など発生しやすい箇所をよく観察し、早期発見に努める。
- (3) 発生を認めたら、ただちに薬剤散布を行う。
- (4) 補植用等の取り置き苗は発生源になりやすいので速やかに処分する。

表1 BLASTAMによる葉いもちの感染好適日の地域別の出現日数(6/1～7/2)

	沼田	中之条	前橋	桐生	上里見	伊勢崎	西野牧	館林	神流
本年値	2.0	5.0	1.5	2.0	3.5	1.0	2.0	3.0	0.0
平年値	1.8	2.4	3.2	3.5	4.0	3.7	3.0	3.2	1.6

注) BLASTAMは、アメダスデータから葉いもちに感染しやすい日(感染好適条件日)を予測するシステムである。
平年値は直近10年の平均値。

紋 枯 病	発 生 地 域	発 生 時 期	発 生 量
	早期・早植栽培地域	並	やや多い

1 予報の根拠

- (1) 前年の発生量は平年よりやや多かった。
- (2) 向こう1か月の気象予報（7月4日発表）によると、平均気温は高い確率80%、降水量は平年並または多い確率40%、日照時間は少ないまたは平年並の確率40%である。

《発生しやすい条件：前年の発生量が多い場合。高温（適温28～32℃）、多湿、多肥栽培で生育が旺盛な場合。》

2 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤防除は株元まで到達するように散布する。
- (2) 今後発生しやすい気象が予報されているため、早期発見、適期防除に努める。
- (3) 特に昨年発生が多かったほ場では、前年のイネで形成された菌核がほ場にとどまり、次作の伝染源となるため注意する。

【コラム】－いもち病（葉いもち）とBLASTAM－

BLASTAM（ブラスタム）は、アメダスデータから葉いもちに感染しやすい日（以下、感染好適日）を予測する発生予察モデルです。

葉いもちは感染してから発病（目に見える）まで約1週間かかります。

そのため、BLASTAMで予測された感染好適日の約1週間後が、葉いもちが発病したり増加したりする危険性が高まる時期になります。その時期にほ場の見回りを行い、早期発見に努めましょう。

感染好適日が多かったり、連続したりすると葉いもちの発生が多くなることがあるので、特に注意が必要です。

ただし、実際の葉いもちの発生は、①菌の量、②イネの品種、③薬剤防除の状況、④ほ場条件などいくつかの要因が関与しています。

そのため、BLASTAMの結果は、「感染好適日の約1週間後が危険」という、葉いもち警戒の参考の1つとして活用します。

Ⅱ) 果樹類全般

カメムシ類 (チャバネアオカメムシ)	発生地域	発生時期	発生量
	栽培地帯全域	—	多い

1 予報の根拠

- (1) 1月に実施した越冬量調査では、本年の越冬量は平年より多い。
- (2) 県内に設置したフェロモントラップへの誘殺数は6月中旬から増加し、6月の総誘殺数は7地点全てで平年を上回った。
- (3) 沼田市に設置した予察灯(水銀灯)への誘殺数は6月中旬から増加し、6月の総誘殺数は平年を上回った。
- (4) リンゴやナシの一部の園において幼果への被害が確認されている。
- (5) 向こう1か月の気象予報(7月4日発表)によると、平均気温は高い確率80%、降水量は平年並または多い確率40%、日照時間は少ないまたは平年並の確率40%である。

《発生しやすい条件：越冬量が多い年は、果樹園への飛来が多くなる可能性が高い。》

2 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹カメムシ類の飛来状況は園によって差があるので、園内をこまめに見回り早期発見に努め、飛来を認めたら早急に防除を行う。特に、夜間の最低気温が高くなると飛来する可能性が高くなるので特に注意する。
- (2) カメムシ類は夜行性であるため、活動の鈍い早朝に薬剤散布を行うと効果的である。

Ⅲ) 野菜類・花き類

オオタバコガ	発生地域	発生時期	発生量
	栽培地帯全域	—	多い

1 予報の根拠

- (1) 県内のフェロモントラップ調査では、7地点中6地点において、4月～6月の誘殺数は平年より多くなっている。
- (2) 向こう1か月の気象予報(7月4日発表)によると、平均気温は高い確率80%、降水量は平年並または多い確率40%、日照時間は少ないまたは平年並の確率40%である。

《発生しやすい条件：高温、乾燥条件で多発する傾向があり、梅雨期に降雨が少ない年には発生が多くなる。》

2 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫は生長点付近の茎葉・蕾・花・幼果に食入する。組織内に入り込まれてからでは防除が困難になるため、ほ場をよく見回り、幼虫は見つけしだい捕殺する。薬剤防除を行う場合は、発生初期に実施する。
- (2) 施設開口部は防虫ネットで被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- (3) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続散布を避ける。

IV) 野菜類

軟 腐 病	発 生 地 域	発 生 時 期	発 生 量
	栽培地帯全域	—	並

1 予報の根拠

- (1) 現在までの発生量は平年並である。
- (2) 向こう1か月の気象予報（7月4日発表）によると、平均気温は高い確率80%、降水量は平年並または多い確率40%、日照時間は少ないまたは平年並の確率40%である。

《発生しやすい条件：本病原細菌の生育適温は30℃前後、高温多湿条件で発生しやすい。主に風雨等による茎葉のこすれ、害虫による食害痕、摘葉等の管理作業に伴う傷口から病原細菌が侵入・感染する。》

2 防除上注意すべき事項

- (1) 雨水がたまりやすいほ場は排水溝を掘り、ほ場の排水に努める。
- (2) 発病後の防除効果は低いので、予防的な防除を重点に行う。
- (3) 降雨によってはね上がった土が作物の傷口に付着することで感染が助長されるため、降雨後は適用薬剤による防除を行う。
- (4) 曇雨天が長引いた場合、その後の気温の上昇とともに発生が拡大するので注意する。特に向こう1か月の気象予報で、軟腐病が発生しやすい気象（気温が高く降水量が多い）が予報されているため注意する。
- (5) 被害残さは感染源となるため、被害株はすみやかに抜き取り、ほ場の外に持ち出し適切に処分する。
- (6) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続散布を避ける。

【その他の病害虫の発生予報】

作物名	病 害 虫 名	発生時期	発生量	特 記 事 項
イ ネ	縞 葉 枯 病	—	並	ヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は平年より低い。5月4半旬に行った麦類作付けほ場におけるすくい取り調査の結果、ヒメトビウンカの捕獲数は平年より少なかった。予察灯やトラップにおけるヒメトビウンカの誘殺数は平年並。
	イチモンジセセリ 第2世代幼虫 (イネツトムシ)	—	並	フェロモントラップ調査による誘殺数は平年並。
	ツマグロヨコバイ	—	並	予察灯による誘殺数は平年並。
	フタオビコヤガ (イネアオムシ)	—	並	フェロモントラップ調査および予察灯による誘殺数は平年並。
果樹全般	ハダニ類	—	並	現在までの発生は平年並。晴天が続くと多発する可能性があるので注意する。

作物名	病虫害名	発生時期	発生量	特記事項
リンゴ	斑点落葉病	—	並	現在までの発生量は平年並。高温多湿条件で発生しやすく、連続した雨などの短期間の気象条件で急増することがあるので注意する。
	炭疽病	並	並	現在までの発生量は平年並。高温多湿条件で発生しやすく、特に果実の濡れ時間が長いほど感染しやすいので注意する。
	スモモヒメシンクイ	—	並	フェロモントラップ調査による誘殺数は平年並。
	キンモンホソガ	—	並	現在までの発生量は平年並。
ナシ	黒星病	—	並	現在までの発生量は平年並。
	ナシヒメシンクイ	—	並	フェロモントラップ調査による誘殺数は平年並。
	ハマキムシ類	—	並	現在までの発生量は平年並。
ダイズ 野菜類 花き類	ハスモンヨトウ	—	並	現在までの発生量は平年並。
キャベツ	コナガ	—	並	フェロモントラップ調査による誘殺数は平年並～やや少ない。梅雨明け等に伴う天候の回復、気温の上昇により、被害が拡大することがあるので注意する。
	タマナギンウワバ	—	並	現在までの発生量は平年並。
夏秋ナス	ハダニ類	—	並	現在までの発生量は平年並。
	アザミウマ類	—	並	現在までの発生量は平年並。
ネギ	ネギアザミウマ	—	並	現在までの発生量は平年並。
	シロイチモジヨトウ	—	並	現在までの発生量は平年並。

【今月の気象状況】

関東甲信地方 1か月予報 (7月6日から8月5日までの天候見通し)

令和6年7月4日
気象庁 発表

＜ 向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%) ＞

要素	地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
平均気温	関東甲信地方	10	10	80
降水量	関東甲信地方	20	40	40
日照時間	関東甲信地方	40	40	20

＜概要＞

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。

期間の前半は前線や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込みです。

平均気温は高い確率80%、降水量は平年並または多い確率40%、日照時間は少ないまたは平年並の確率40%です。

週別の気温は、1週目は高い確率80%、2週目は高い確率60%、3～4週目は高い確率50%です。

＜参考＞ 前橋地方気象台観測平年値(7月)

	平均気温(℃)	降水量(mm)	日照時間(時間)
1半旬	24.4	31.4	20.1
2半旬	25.0	32.9	21.1
3半旬	25.5	32.7	22.5
4半旬	25.9	31.6	23.9
5半旬	26.5	32.2	25.3
6半旬	27.1	38.2	33.3

農薬の登録内容は随時変更されておりますので、防除薬剤については指導機関にご相談下さい。また、以下のホームページでも確認できますのでご利用下さい。

- ◆ 農林水産省 農薬コーナー (農薬に関する様々な情報)

<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>

- ◆ 農薬登録情報提供システム (最新の農薬登録状況の検索や登録・失効農薬情報等)

<https://pesticide.maff.go.jp>

- ◆ 群馬県 農作物病害虫・雑草防除指針

<https://www.pref.gunma.jp/06/f0900064.html>

- ◆ 群馬県農業技術センター 病害虫発生予察情報一覧

<https://www.pref.gunma.jp/07/p14210015.html>

- ◆ ぐんま病害虫ライブラリー

<https://sites.google.com/view/g-byougai>



病害虫発生予察情報
一覧はこちら！

